



Report by 堀

雲竜溪谷 2026・2・07

2020 年以来、6 年ぶり、6 回目の雲竜溪谷です。

今回の参加者は、池戸さん、中島さん、服部さん、堀の 4 名でした。



計画では浅草発 7:30 の「リバティきぬ 105 号」でしたが、早々と満席で、それより 30 分前のリバティけごん 3 号になったので、池戸さんはだいぶ早起きすることになって・・・その池戸さんと北千住で落ち合い、けごん 3 号に乗り込むと浅草から乗ってきている中島さん、服部さんと合流。服部さんには帰りの東武鉄道株主優待券をチケット shop で買ってもらっているので、ここで受け取り精算となったが、何とということか、ご本人、チケットを他のチケットと間違えて自宅に忘れてきたとのこと。池戸さんと堀は、「なんだか悪いね」という気持ちで切符を受け取った。

電車の中で我々の床に朱色のゴムの破片が落ちている。それが私（堀）の靴底が剥がれてきたものとは暫くは気付かなかった。



下今市からは東武日光線になる。日光が近づくと左手に男体山がよく見える。雪は少ないようだ。東武日光に 8:54 到着。6 年ぶりということで、色々と変わっている。その 1：以前利用していた三英自動車というタクシーに事前予約の電話を入れたが、“雲竜溪谷方面は予約を受けない。当日、タクシー乗り場に並んでくれ”ということだった。その 2：昼食は駅売店の“笹の葉寿司”と決めていたのだが、そういう商品は無くなっていた。安くておいしかったのに残念！



タクシーにザックを積み込んで、「雲竜溪谷に行くので、林道ゲートまで」と行先を告げると「林道ゲートには行けません。会社で決められています。手前の滝尾神社までです。」池戸さんが、一台後のタクシーと交渉したが、やはり滝尾神社までしか行かないというので、止むを得ず神社まで行ってもらうことにする。神社でストレッチ、ご覧のとおり全く雪なんてありません。

滝尾神社から林道入り口までは小一時間かかる。暫く歩いたところで、上から降りてくるタクシーに出会う。三英自動車の車だ。三英自動車に予約電話を入れた時は、“滝尾神社までしか行かない”と言っていたのだが、運転手さんと話をすると、“運転者による。別料金になる”ということだった。

3千ながしかで行ってくれるようだったが、“えいやっ”と歩くことにする。(皆さんゴメンなさい)



こんな舗装道路を 50 分歩いて、ようやく林道入り口に到着。この間、数か所、路面凍結しているところはあったが、以前の三英自動車なら問題なく行ってくれる状況だった。

(当時もタクシーによってはダメだった。それで三英に事前予約していたわけだが。)



林道入り口を 10 時に出発。林道もほとんど雪は無く、凍結箇所を注意して歩く。

11:00 少し前に稲荷川展望台に到着。

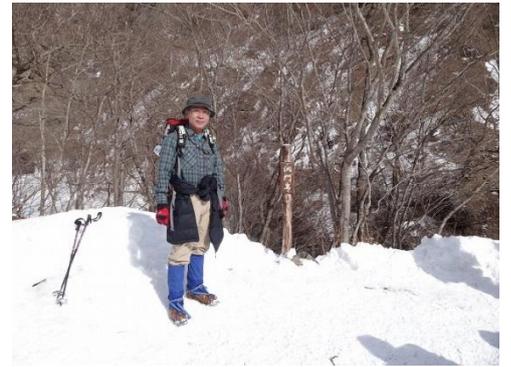
計画では 11:10 なので、オンタイムである。

列車が 30 分早くなったことに加えてアイゼン装着の時間が不要だったためだ。

展望台から稲荷川上流を望むと砂防ダムの工事が進んでいるようだ。



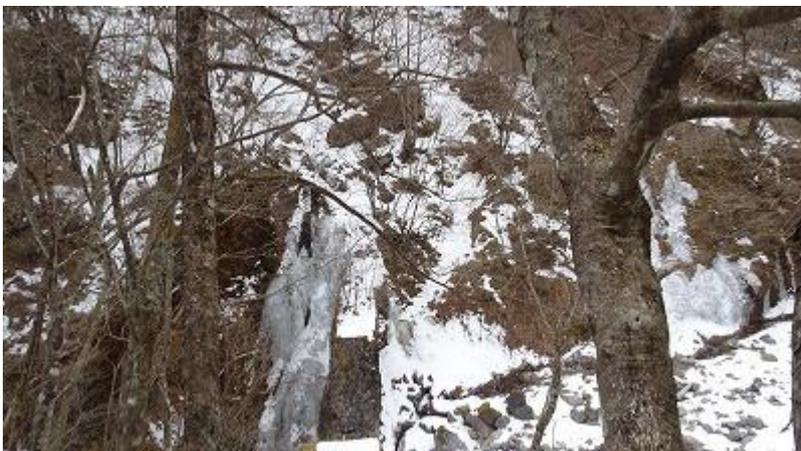
11:25 洞門岩着。ご覧の通り、雪はほとんどない。(参考) 2015年



洞門岩を下ると、何回か稲荷川を渡渉しながら遡行するのだが、以前は無かった土石流を食い止めるこんなものが設置されている。



ここを潜って谷の奥に歩みを進める。



一部は谷川を高巻きするルートになっている。
この辺りでも積雪はほんのわずかだ。



12:20 雲竜溪谷入口の展望広場に到着。昼食とする。
中島さんはここではいつもカップ麺じゃない？
温かいものはいいいね。



12:40 アイゼンを装着し、ここにザックをデポして、空身で氷瀑を目指す。
私は、剥がれた靴底をアイゼンで何とか縛って・・・(まあ何とかなるか?)



渡渉を何回か繰り返す。零下 10°C 近い所で転倒・落水などしたら厄介である。
流れの中の岩を選んで慎重に進む。





この辺りはまずまずである。



雲竜滝

周囲に全く雪が無いし、氷瀑も痩せている。下部の氷の堆積も無い。感動もいまいちだが、まあ、ここまで来られたことで良しとしよう。



滝からの帰路、池戸さん、渡渉でバランスを崩して尻餅。ズボンのお尻が少し濡れた程度で済み、まあ不幸中の幸い。

(この写真は転倒とは関係ありませんが・・・)

ともかく、渡渉箇所が多いので転倒のリスクはいつもあります。



雲竜溪谷入り口の展望台に戻ってデポしてあったザックを背負い、洞門岩に戻る。

皆さんは、ザックをデポした展望台でアイゼンを外したが、私は靴底を縛り付けておく必要もあったので、洞門岩までアイゼンを装着。昨年は雪山登山を見送って今回は2年ぶりのため、前日に靴にアイゼンを装着して調整した。そのときは靴底が剥がれるとは思ってもいなかった。これまでこの靴はアイゼン装着しての歩行がほとんどで、靴底は摩耗していなかったため、気に掛けることも無かった。やはり時間が経つと接着部が駄目になると改めて思い知った。

それにしても、靴底がパタパタ、ペタペタとスリッパで歩いているようで気持ちが悪い。

稲荷川展望台に戻る。

ここは携帯が通じるので、通常はここからタクシーを呼ぶのだが、林道ゲートまで来てくれないならゲートまで下りてから呼んだ方が良い。現在15:15だとゲートは16:00。そこから滝尾神社まで下りてタクシーということだと、温泉は時間的に難しい。

この段階で温泉は断念する。





滝尾神社 16:40 からタクシー

17:00 東武日光駅着。

当初の予定より 1 時間早く駅に着いたが、次の浅草行き特急は、まとまったの席が取れない。

結局、当初計画通りの 18:10 発リバティげごん 50 号を予約して、蕎麦でも食べようということになる。



最初の店はもう閉店している。なんて早いんだ。

そのすぐ先のお店がまだ営業していたので、そこで数種類の湯葉が入った蕎麦を全員注文。

北関東（栃木や群馬）はお蕎麦の美味しいところです。また、湯葉は日光の名産品です。



駅に戻ってアルコールを仕入れ、恒例の車内宴会。



今回は浅草の神谷バーはパスということになり、服部さんと私は北千住、中島さんと池戸さんは浅草まで。

久々の雲竜溪谷でしたが、滝尾神社と林道ゲートを往復歩くことになり、お疲れ様でした。

出発が予定より早い列車になり歩き始めが早かったこと、コースタイムをかなりゆったり取ってあったこと、残念ながら氷瀑が貧弱で撮影時間が掛からなかったことなどで、歩いた割に計画より一時間早く東武日光駅に帰着となりました。

雲竜瀑や氷柱がイマイチではあったが、それでもそんじょそこらにはない光景を見ることが出来、心配していた渡渉での転倒はあったものの少し濡れた程度

で済み、幸いでした。

今日の関東地方は、南関東沿岸部を中心に雪の予報が出ていて、帰りの交通機関の混乱を心配したが、雪の降りだしが帰着するころからだったので助かりました。

翌朝、起床したら一面の銀世界で驚きました。